

5月の果実の見通し

平成30年4月20日現在
山形県東京事務所

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
いちご類		2,862	95%	2,425	840	高い	831	-	-	4月は寒暖の差が激しく、強風等もあって管理が難しかった。上旬までは出荷量多かったがイタミ果の発生も見られたが、中旬からは徐々に減少。九州産地はピークを過ぎ、5月に入ってから出荷量の回復は見込めずだらだらペースで推移。中旬までは各産地の出荷があるものの下旬には終了となる産地も多い。昨年に比べ全体の切り上がりも早い見込み。
おうとう		143	110%	113	2,892	やや安い	3,924	44	24%	当初は年明けからの低温の影響もあって生育遅れ気味であったが、3月末から気温高で推移したため、若干生育は早めとなって4月中旬には数量もまとまってきた。4月末から5月『母の日』にかけても潤沢な出回りが見込まれる。『母の日』までは化粧箱中心となるが、その後はパック形態中心となって価格がこなれてくることから量販店等へも販売が広がってくる。
すいか類		6,258	110%	6,377	297	やや高い	276	1	0.0%	熊本産の4月出荷量は前年より少ないが、5月連休に向けて増加傾向。5月中旬に向かって出荷ピークになり、千葉産出荷も始まることでカット販売が中心となる。こだま西瓜も群馬・茨城に引続き千葉産の出荷が始まり、熊本は下旬から黒小玉すいかが始まることですいかの販売スペースがいちごに替わって大きくなる。
メロン類		3,193	110%	3,454	550	やや高い	519	0	0.0%	熊本産春メロンは4月下旬からようやく本格的な出回りとなった。茨城産も3月末からの好天により生育回復して玉肥大も進んでいる。出回り量の増加により価格は緩やかな下げ基調となるが、5月連休前後から量販店などの売り場も広がって引き合いは強まってくる。各地ともに品質が良く上位等級品が多くなっており、下等級品が多かった前年と比べて単価高で推移する見込み。
マンゴー		145	100%	102	2,872	前年並	3,652	-	-	主力となる宮崎産は順調な出荷が続いており、5月も前年並の出回り量が見込まれている。例年通り4月半ばには特選品『太陽のタマゴ』が始まり、5月中～下旬にかけて増えながら推移。早めに数量が揃ってきたことで、4月下旬にはある程度こなれた価格となって売り場が出来ており、「母の日」ギフトの主力商材の一つとして引き合いは強い見込み。
	※おうとうの競合品目(母の日ギフト需要)として、参考掲載									

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)